

## 【保護者アンケートの結果と考察】

※各保護者の回答項目を点数化（1～4点）し、集計した値（1～4点）をもとにする。

### ○評価が高かった項目（3ポイント以上）

- (1) 楽しい学校生活、(2) 授業理解、(4) 返事、(5) 後始末
- (6) 友達と仲よく、(7) たくましい心と体、(8) ルールを守る、(9) 学習規律
- (10) 基礎的な学力 (11) 主体的に参加、(12) タブレット端末の活用、(14) 家庭学習
- (15) 学校の情報を伝える、(16) 一人一人を大切に、(17) 学力の向上に努めている、
- (18) よい環境、(19) 健康づくりへの配慮、(20) 地域との連携

### ○評価が低かった項目（3ポイント未満）

- (3) あいさつ、(13) 家でのタブレットのルールを守る

### ○学習面について

授業への理解の項目は3.27ポイント、基礎的な学力の項目は3.06ポイントで、昨年度よりも向上している。また、家庭学習の習慣の項目は3.03ポイントも同様に、昨年度よりも向上している結果となった。

### ○生活面について

楽しく充実した学校生活の項目については、例年よりも高い数値となっており、学校生活への満足度が高い状態と言える。社会性を身に付けている途中の子どもたちが経験する人間関係のトラブルについても学びの1つとしてとらえ、今後も児童と保護者の思いに寄り添いながら、丁寧に対応していき、誰もが安心して学校生活を送ることができるよう努めていく。

あいさつ、家でのタブレットの項目については、例年と同じく3ポイントを超えておらず、改善傾向が見られていない。児童会の活動や情報モラル教室など、定期的な啓発活動を行うよう計画をしていき、家庭との連携強化を図っていきたい。

### ○アンケートへのご協力ありがとうございました。

さくら小学校では、多くの教職員で様々な問題や課題に取り組んでいます。担任だけでなく、様々な職員の視点から一緒になってサポートすることで、児童や保護者の皆様により安心していただけたと考えています。また、学校に多くの相談をいただいておりますが、今後も遠慮せずに、気になったら、気付いたら、いつでも、誰でも相談していただきたいです。一人で抱え込まずに、みんなで共有して、一緒に解決に向かっていきたいと考えています。

## 【児童アンケートの結果と考察】

※各児童の回答項目を点数化（1～4点）し、集計した値をもとにする。

### ○評価が特に高かった項目（3.4ポイント以上）

- （1）楽しい学校生活、（6）友だちと仲よく、（7）たくましく育つ
- （8）ルールを守る、（11）タブレット端末の活用
- （12）家でのタブレットのルールを守る、（13）家庭学習、（14）係の仕事・掃除

### ○評価が低かった項目（3ポイント未満）

- （15）地域行事への参加している

### ○保護者アンケートの結果よりも評価が特に高かった項目（0.4ポイント以上の差）

- （12）家でのタブレットのルールを守る、（13）家庭学習

### ○学習面

学習に関連する項目では、例年と同様の値となった。

家庭学習の習慣の項目においては、児童が3.44ポイントに対して、保護者は2.92ポイントで、0.52ポイントの大きな差があった。また、教職員の2.37ポイントと比べても1.07ポイントの差となった。

家庭学習の取組を頑張っている児童は多くいるので、その姿を認めつつ、家庭での意欲的な学習活動が行われるよう、引き続き支援をしていく。

### ○生活面

家庭でのタブレット端末等の使用のルールを守る項目において、児童が3.63ポイントに対して、保護者は2.92ポイント、教員は2.11ポイントで、大きな差があった。デジタル機器の使用については、今後、社会的にもますます推進されていくので、使用方法や情報モラルについて、学校からの指導を中心としつつ、各家庭においても、適切に指導が行われるようにしていく必要があると考える。

学校が楽しいと肯定的に回答している児童が多かった。児童会主催の学校行事も立ち上がり、児童の手で学校を盛り上げてくれた。しかし、6%の割合で学校を楽しくないと感じている児童がいる。例年よりも低い値ではあるが、誰一人取り残さないという点では、課題が残る結果であるので、個別の対応に力を入れていく必要がある。

安心・安全な学校生活は、全教育活動の土台でもある。保護者、地域だけでなく、関係機関とも連携を密にとって、全職員で不安解消に努めていく。

今年度は、エプロン先生の活動が年間を通じて行われており、1年生の生活支援に非常に有効であった。また、PTA活動、学校運営協議会協賛の星を見る会など、保護者や地域の人々が集まる活動が盛んに行われ、校区の親睦も深まったと思う。子どもを中心に添えつつ、校区内で人と人がつながる行事がさらに盛り上がることを願う。